すず『雌猫の一生』を想う、のこころ

10月18日 逍遥

篤姫は、元々愛犬家だったそうですが、夫の将軍・徳川家定が犬嫌いだったため、大奥に入ってからは猫を飼っていたのだそう。最初の雌猫「みち姫」はすぐに亡くなり、そのあと三毛猫の「さと姫」とおよそ16年もの間一緒に暮らしたそうで、なにせ将軍の御台所の飼い猫ですから、専属の世話係が3人もいて、一年間の食費も25両（今だとおおよそ250万円）程だったとか。今の時代のワタシ達・猫の平均的なキャットフード年間支出額は大体3万8千円程度だそうなので、さと姫のセレブライフぶりが想像できますね。

でも、城山辺りをこうやって自分の好きなように毎日散歩できる今のワタシも、決して捨てたもんじゃない、とワタシ自身はとても満足していて、ここでまた、逍遥館長さんが何やら一人で呟いています。「全くの偶然だけど、篤姫が47歳で亡くなった年（1883年）に、あのフランスの作家・モーパッサンが『女の一生』を発表したんだね。小説の有名な最後のセリフ曰く『人生って、人が思うほどいいものでも悪いものでもありませんね』」

次回「すず　御楼門をくぐる、のこころ」